

# チーパを作ろう

氏名： 宮内宏子

学校名： 愛媛県立今治特別支援学校

担当教科： 生活単元学習

実践教科： 外国語・国語・生活単元学習・家庭科

時間数： 2時間

対象学年： 高等部3年

人数： 7名

## 【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：	
「外国の文化を知ろう」 パラグアイの文化を体験し、自分たちの食習慣や生活について振り返る。 パラグアイはどんな国か、何が有名か、外国に興味を持つ。	
【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度 外国の文化を受容したか
	(イ) 思考・判断・表現 調理活動に積極的に参加したか
	(ウ) 技能 手順に沿って作業したか
	(エ) 知識・理解 外国についての知識が広がったか
【3】 単元設定の理由  ✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観	<b>【生徒観】</b> 本学級の生徒は、男子4名、女子3名で構成されており、自閉症スペクトラムを伴う知的障がいの診断を受けている。本校在籍年数はそれぞれ異なり、学習到達度も様々であるが、高等部3年生となり、授業や行事を経験するごとに、生徒同士の関わりも増えて、お互いを認め合う場面も多く見られるようになった。また、スケジュールで見通しが立つと、集団活動に参加しやすくなったり、接触過敏を事前に回避したり、ルールを守ることを強く意識するようになったりするなど、個人の課題に対する成長が見られるようになってきた。  生徒A：小学校低学年程度の漢字を理解している。パソコンで動画やゲームをしたり、工作をしたりすることが好きである。イラストを描いたりすることも得意である。調理をすることも好きで、家庭でも食器を準備するなど、手伝いを日課としている。興味が向かないことには、集中力が続きにくい。  生徒B：平仮名の理解があり、「トイレいく」など、メモを書いて意思を伝える。バスや船などの乗り物が好きである。家庭では、みそ汁の作り方を覚えており、具材を切るなど、積極的に調理をする。日課に沿って活動するため、視覚的に予定を提示し、一緒に確認することで落ち着いて過ごす。何度もやり直しをしたり、自分の思い通りに行かないことがあったりすると、相手の顔に手が伸びることがある。  生徒C：小学校1、2年生の漢字を理解しており、生活の中で使用する身近なものは、

読み書きをする。アニメの印象に残った場面を思い出して盛り上がる事が多く、話を聞いたり、課題に集中したりするためには、言葉掛けを必要とする。お菓子作りが好きで、クッキーやチョコレートなど、簡単なレシピを見て自分で作る。疲れを感じても、自分で伝えることが難しいため、「する」「休む」の選択肢を提示したり、教師が活動量を調節したりする。

生徒D：平仮名の読み書きを行うが、意味を理解するよりも、音やリズムとして捉えていることが多い。イラストを描いたり、リズム打ちをしたりして楽しむ。料理をする様子を動画で撮影し、視聴する。調理実習にも積極的に参加する。他人の大きな声や注意をする場面を思い出し、口調をまねて独り言を言う。

生徒E：小学校低学年の漢字の読み書きを行う。自分の興味があることの知識が豊富で、車、電化製品、天気などを通して、会話を楽しむ。手先の細かい作業はやや苦手であるが、様々なことに前向きに取り組もうとする。優しく言葉掛けしたり、励ましたりすることで、課題に取り組みやすくなる。

生徒F：平仮名の試写を行う。絵カードや写真で予定を確認し、見通しを立てて行動する。制作活動では、初めに完成図を確認しておくことで集中力を持続させ、取り組みやすくなる。○と×のカードを指したり、声の調子で意思表示をしたりする。初めての活動には、抵抗感がある。活動全般において受け身である。こだわりから、調理で作ったものは、ほとんど食べない。

生徒G：平仮名のなぞり書きを行う。教師や友達に興味があり、自分から関わりを求める。「できた」「終わったら？」など、単語でコミュニケーションを取る。障がい特性から、体重増加が心配されるため、給食の量を調節する。また、膝の骨に負担が掛かるため、車椅子で生活をする。

#### 【教材観】

本単元では、外国のお菓子（チーパ）作りを行う。生徒たちは、給食の時間は、毎回楽しみにしている生徒も多く、食べるのが好きである。また、調理実習では、自分たちの手で作って食べることの楽しさを感じている。生徒の中には、外国の概念理解も個人によって異なっている。一方では、写真や地図を見て外国を意識し、その土地に根付いた文化を理解させたい。そこで、はじめに調理活動への導入として、地図と国旗の学習を行うことで、パラグアイや外国の存在を意識する授業を行う。また、自分たちの生活を振り返り、生徒がパラグアイに興味を持てるように、クイズに答えながら文化の違いを意識させたい。他方では、新しい物に興味を持ち、意欲的に調理活動を行うなどして、食文化から興味の幅を広げたい。次に写真や動画を見てチーパ作りを確認し、自分たちで「今特チーパ」のレシピを作る。教師と一緒に作業工程を動画で一つずつ確認し、一人一人がワークシートに作業工程を書く。さらに事前にチーパを試食することで、実際の実習がイメージしやすいようにしたい。

#### 【指導観】

本時では、パラグアイのおやつである、「チーパ」作りを行う。前時に試食したことや、自分たちでレシピを書いたことを振り返り、活動への意欲を持たせたい。また、写真付きの作業工程表を提示して、自分の分担を確認し、見通しを持って作業を行えるようにしたい。得意な作業で自信を持って活動したり、友達が作業をしている様子を観察したりして



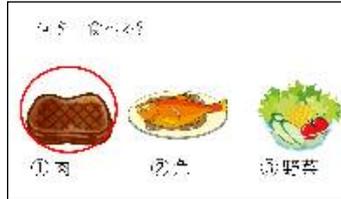
<p>5 本時</p>	<p>外国のお菓子を作ろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動内容の確認をする。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日作る物は何か。教師の質問に挙手をして答える。</li> <li>・前時に試食したチーパのパッケージを見て、活動に対する意欲を持つ。</li> <li>・模造紙に書かれた作業手順を確認する。</li> </ul> </li> <li>○ 調理準備をする。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・エプロン、マスク、三角巾を着ける。</li> <li>・手洗いをする。</li> </ul> </li> <li>○ 材料を確認する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストと実物を一致させて、何を使うか確認する。</li> </ul> </li> <li>○ 教師の支援を受けながら、お菓子作りをする。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・粉や牛乳などは、量りの数字を確認し、調節しながら分量を量る。</li> <li>・混ぜるときには、教師の見本を見ながら取り組む。</li> </ul> </li> <li>○ 試食する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達と感想を伝え合う。</li> </ul> </li> <li>○ 片付けをする。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から進んで手伝いを申し出たり、教師の依頼を受けたりして、分担して最後まで後片付けを行う。</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【写真6 チーパ作り】</b></p>	<p>模造紙 チーパ エプロン マスク 三角巾</p>
-----------------	-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------

**【5】 本時の展開**

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料教材
<p><b>導入</b> (5分)</p>	<p>活動内容の確認をする。</p> <p>作業手順を確認する。</p> <p>エプロン、マスク。三角巾を着ける。 手洗いをする。</p>	<p>国旗を示し外国を意識する。 試食したお菓子のパッケージを提示する。</p> <p>黒板に貼った作業工程を見て、視覚的に流れがわかるようにする。 着用の支援を適宜行う。 見守りや言葉掛けをする。</p>	<p>国旗 パラグアイのお菓子</p> <p>模造紙</p> <p>エプロン、マスク、三角巾、石けん</p>
<p><b>展開</b> (35分)</p>	<p>材料を確認する。</p> <p>教師の支援を受けながら、お菓子作りをする。</p>	<p>材料や器具の名前を質問する。 衛生に気を付けたり、安全に気を付けたりする。 教師の説明をよく聞いてお菓子作りの支援をする。</p>	<p>ゴムベラ、ボウル、オーブン、クッキングシート 粉、卵、油、チーズ、牛乳</p>
<p>(10分)</p>			

まとめ	出来上がったお菓子を試食する。	食べてみて、教師の質問に答えたり、お互いに感想を言い合ったりする。	
-----	-----------------	-----------------------------------	--

【授業実践の様子】



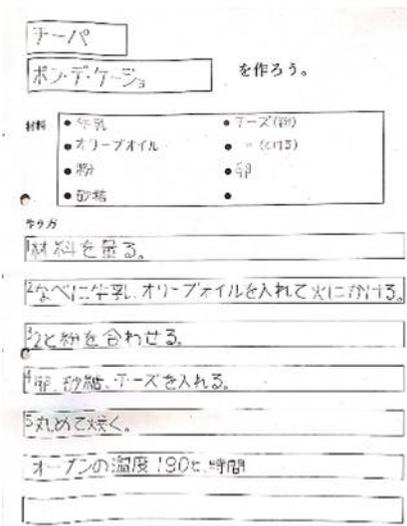
【写真1 パラグアイクイズ】



【写真2 パラグアイ位置確認】

【写真3 現地スーパーで購入したチーズ】

【写真4 チーズ出来上がり(参考)】



【写真6 チーズパ作り】

【写真5 「今特チーズパ」 レシピ】

【6】 本時の振り返り

今日作るものは何かという教師の質問に、数名の生徒が挙手すると、「チーズパ」と答えた。前時に試食したパラグアイのお菓子「チーズパ」のパッケージを見て、他の生徒も注目した。家庭科の調理は、日頃から慣れている活動であるため、自主的にエプロンを着ける生徒がほとんどで、準備はスムーズに行えた。教師の支援や見守りを受けながら、手洗いを行った。説明はできるだけ短くなるように、作業手順を模造紙に書いて貼った。他クラスとの合同であったため、模造紙を見ながら、全員で手順を確認できた。

調理中は、自分の役割が回ってくるまで、友達の様子を見守った。デジタルスケールを使って計量をしたり、材料を混ぜたりした。数字を見ながら、教師の言葉掛けを受けてボウルに粉や牛乳を分量通り入れたり、合図があるまで全体を混ぜたりするなど、落ち着いて取り組んだ。焼くときには、オーブンの温度と時間を生徒が自発的に教師に確認した。生徒の実態に応じて、教師と一緒にオーブンの中に生地を入れると、スタートのスイッチを押し、オーブンの前で出来上がりを心待ちにした。また、可能な限り使った道具を洗ったり、拭いたり、元の場所に片づけたりするなど、教師の指示をよく聞いて、それぞれが役割を果たした。

試食では、教師が尋ねると、「おいしいです」と答えたり、黙々と食べたりした。

#### 【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

パラグアイクイズでは、ある外国の国について紹介することを伝えると、写真で現地の風景を見て、「アメリカ？」と答えた。また、国旗を答える場面では、「タイ」「フランス」と、ヒントなしに答えた。国旗を示す国が「パラグアイ」であることを伝え、知っているか、聞いたことがあるかと教師が尋ねると、誰も手が上がらなかった。

Google Earth を使って、自分たちの学校からパラグアイまでの距離を視覚的に確認した。登下校の様子が偶然写っており、「これ誰やろ？」と写真に注目した。パラグアイまで移動すると、初めて見る都市部の風景に「あまり街じゃない」と、感想を述べた。

日本からパラグアイまでの飛行時間を答える問題では、16 時間に挙手するものが最も多かった。24 時間だと知ると、「24 時間？1 日？」と驚いた表情の者もいれば、あまり想像が付かない様子の者もいた。今から明日のこの時間まで移動が続き、やっと到着するのだと伝えると、「しんど」と感想を述べた。

食文化については、主食は「肉」「魚」「野菜」のどれかを選んだ。最も多かったのは「野菜」、次に「魚」で、「肉」を選んだのは、1 人だけであった。

盛んなスポーツを答える問題では、写真を見ると、すぐに「サッカー」「バレー」と答えた。「セパタクロー」は、「テコンドー？」と答えた者がいるなど、名前を聞いてもピンと来る生徒がおらず、文化の違いを実感した。

日本からパラグアイに移住した男性の半生を伝えた VTR を視聴すると、地方の様子に「道が広い」と感想を述べた。また、10 代で日本から船で 40 日余りかかってパラグアイに到着したことを知り、(外国に) 行ってみたいか、移り住んでみたいかと尋ねると、「行ってみたい」と答えたのは、1 人で、「新しいことにチャレンジしてみたい」と答えた。他の者は、「嫌だ、怖い」、「日本がいいです」と答えた。

移住者の方が、自身の生き方について、高杉晋作の「おもしろきこともなき世をおもしろく」という言葉を紹介した。教師から、「みんなは、毎日同じことの繰り返しで、つまらないと感じたことはないだろうか？」と自身を振り返る問い掛けを受けると、全員が真剣に教師の話聞いた。

地図学習では、地図上を指して、自分たちが今いる場所を 1 人ずつ確認した。パラグアイの位置は、すぐには見付けにくく、初めは、どこにあるかを知っている者はいなかった。教師が南米を指してヒントを示すと、「ここ」と見付けた。また、別の生徒は、隣の国を指したため、「アルゼンチン」だと教師が伝え、反対隣の「ブラジル」を見付けて声に出して確認した。パラグアイだけでなく周辺国の位置関係にも興味を持った。

食習慣を振り返り、普段どんなおやつを食べるか尋ねると、「クッキー」「カップケーキ」「ポテトチップス」「まんじゅう」などが上がった。前時に学習したパラグアイのおやつを紹介し、全員で試食した。7 名中 6 名がチーパを口にした。「チーズの味がする」と感想を述べた。チーズが苦手な生徒も、現地で購入したものと、教師が試作したもの、両方を 2、3 個食べた。初めて食べたため、「チーパ、チーパ」

と、何度か名前を確認する者もいた。

レシピ作りでは、前回試食したパラグアイのおやつを覚えているかと尋ねると、少し詰まりながらも、「チーパ」と答えたり、教師の後に続いて「チーパ」と繰り返し言ったりした。レシピ動画はブラジルのポンデケージョを参考にすることを伝えると、「ポンデケージョ」と何度か繰り返し言った。動画の注目時間は、生徒によって異なったが、7名中2名は最後まで集中して視聴した。その他の生徒も、材料を紹介するところは、動画に注目した。どんな材料が出てきたか、教師が質問すると、勢いよく「卵」「牛乳」「油」「チーズ」を答えた。動画をもう一度確認した後で、再度必要な材料は何かと教師が尋ねると、「粉」と答えた。ワークシートに作業工程を書くときには、生徒A、C、Eは、漢字を使って書くことを目標にした。Bは教師の支援を受けながら、手順を確認して書き写した。Dは、平仮名と片仮名を区別して作業工程を書き写した。Fは手元で教師の文字を平仮名で試写した。Gは教師が書いたペンの上から平仮名でなぞり書きをした。作業工程を書く作業では、初めは、ほとんどの者が大きな文字で書くことが難しかった。そこで、教師が丸い枠を書き入れ、枠の中いっぱいを書くようにした。模造紙に貼る作業では、FとGが積極的であった。大きな写真を順番に並べることが、見通しを持ちやすい作業であったようだった。

**【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】**

移住者のVTRを視聴して、教師が質問を投げ掛けると、生徒は自身の内面について振り返った。これまで授業で扱ってきたのは、言語の学習のみであったが、真剣に話を聞く態度が見られた。生徒に対して、何らかの問題提起ができたのではないかと考えている。

7名中2名は、授業後も世界地図を眺めて、国名をたくさん言ったり、海外のことを扱ったニュースを報告したりした。生徒から発信する話題が、外国に関することで自然に増えていた。

**【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】**

(授業前)

ア) 生徒がイメージする外国といえば、「アメリカ」で、外国では外国語が話されているというのが常識であったようだった。

イ) クラスの中にも、外国の存在を理解している者と、そうでない者が混在している。そこで、全員が修学旅行で飛行機に乗った経験があることから、「外国は飛行機を使って行く、遠いところ」と伝えようと決めた。

(授業後)

ア) パラグアイという国の存在や、日本からの移住者がおり、そこで日本語や日本文化が生きていることに、不思議な様子であった。

イ) 生徒AとEは、地図学習の後にも国旗や地図に興味を持った。Aは自分で「オーストリア！」と言って、地図上で国を探すゲームをした。Eは、「オーストラリアは今何時ですか？」と教師に尋ね、地図で時差を「1時間」と確認し、「今オーストラリアは、お昼休みの時間だね」と言った。

**【8】自己評価**

1. 苦労した点	<p>今までの異文化理解教育は、言語の学習に偏っていたことを反省した。サッカーは、ユニフォームを見るとすぐに分かったようだったが、スポーツが好きな生徒でも、セパタクロールを知っている者はいなかった。私たちが身近にない文化を「知る」手段は、経験することが重要なことだと、改めて感じた。本単元では、食文化に焦点を当てたが、今後も体験的な学習を更に進めていきたい。</p> <p>調理活動では、本時で使用したチーパの粉が予想以上にまとまらなかった。前時に試食したものと、出来上がりが異なったが、自分たちが作った「いまとくチーパ」を否定する生徒はいなかった。教師が想定した出来上がりではなかったが、生徒に未知を受け入れる姿勢が見られた。</p> <p>チーズが苦手な生徒 B は、調理活動でチーズを中に入れることを強く否定した。試食のときには、チーズが入っていることに気付かず、全く抵抗感はなかったが、本人が混乱することを想定して、レシピ作りのときにチーズを入れないで作ると、対応策を伝えておくべきであった。</p> <p>クラスの生徒の中でも、理解や発達段階が様々であるため、学習教材の選定や、授業展開を考えることに悩んだ。</p>
2. 改善点	<p>移住者の VTR 視聴では、教師の問題提起に対して生徒が感じたことなどをワークシートにまとめ、言語活動を充実させたい。ただし、外国語は週 1 回しか授業がないため、他教科での横断的な学習の機会が必要だと感じている。</p> <p>今後は、特別支援学校における国際理解教育として、発達段階や理解に応じて、パラグアイという国には「もう 1 つの日本」があることを伝え、生徒自身が考え、発信する授業と、異文化を受容する態度を育てるための、体験的な学びの 2 つを重点的に行っていきたい。スカイプなどを利用して、コミュニケーションを図ったり、伝統工芸のニャンドゥティの実践を行ったりしたい。</p> <p>年間指導計画の中にいかに組み込んでいくかを、授業担当者で相談し、総合的な学習の時間の中でも取り扱っていきたい。</p>
3. 成果が出た点	<p>パラグアイへの教師海外研修に参加したことで、持ち帰った教材を他の教員に貸し出したり、話をしたりする機会を持てたことで、1 人でも多くの人に国際理解について興味を持ってもらうきっかけになったのではないかと考えている。特にニャンドゥティのコースターは色鮮やかな刺しゅう糸で繊細に作られており、多くの人に喜ばれた。</p>
4. 備考（授業者による自由記述）	<p>食文化に触れたり、調理活動をしたりした機会が増えて、食に興味を持った生徒 E が、給食中に「ごはんは炭水化物」「お肉はタンパク質」と言う場面が何度かあった。今後は、授業を通して、保護者へも理解を図りながら、食育と国際理解についての学習を深めていきたいと考えている。</p> <p>本単元の後に、環境教育の一環として『もったいないばあさん』を教材に授業を行ったが、パラグアイ研修でのエピソードを十分に取り入れられなかったことを反省した。次回は関連性を持たせた授業展開をしたい。</p> <p>チーパ作りの動画は、ブラジルのポンデケージョを参考にした。地図学習のときに触れた国であったため、「お隣の国だから、似たお菓子がある」と伝えた。</p>

	<p>子どもたちにとって、自分以外の人やものに関心を持つことは、周りのことに気付いたり、考えたりするきっかけになると考えている。身近なことを知ることが、遠い世界にいる外国の人やものとつながっていることを一人でも多くの子どもたちに知らせたい。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

添付資料：

Power Point

Google Earth

世界地図

チーパ

チーパレシピ

参考資料：

ポンデケーキレシピ <https://cookpad.com/recipe/2665324>

Mi libro Mahico de Valores ARAMI